

<p>文学・哲学・言語</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 信念の認知地図理論とその射程</p> <p>□ 因果性が知覚経験の表象内容に含まれるのか否かの検討</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 信念 ■ 認知地図理論 ■ ベイズ主義知覚理論 ■ 深層学習 ■ 因果性の知覚 	<p>私の専門は哲学であり、心の哲学(特に知覚の哲学)や近世哲学史などを研究している。現在、主として取り組んでいるのは、(1)信念の本性の検討と、(2)「因果性は知覚経験の表象内容に含まれるのか」という問題の検討である。以下、それぞれについて説明する。</p> <p>【(1)信念の認知地図理論とその射程】</p> <p>信念とは私たちの認知状態の一つであり、英米圏の心の哲学では、標準的には「あそこに赤いリンゴがある」といった命題の内容を表象する心的状態と見なされてきた。しかし、この標準的見解にはいくつかの問題が指摘されている。その中で、現在私は科研費基盤研究(c)(課題番号 22K00030)として、「信念が心的表象だとした場合、その表象はどのような本性を持つのか」という問題に取り組んでいる。その際、心的表象の構造を統語論的なものではなく地図的なものとして理解する「認知地図理論」に焦点を合わせて研究を行っている。「認知地図理論」のルーツは 1940 年代の心理学にあり、心の哲学では主に 1990 年代以降議論されている。本研究では、21 世紀以降に進展している認知科学の知見、具体的には、ベイズ的認知理論と深層学習の知見を取り入れながら、認知地図理論の整合性や射程を明らかにすることを試みている。</p>
	<p>【(2)因果性は知覚経験の表象内容に含まれるのか】</p> <p>あなたがスーパーに行けば、さまざまな色や形や大きさをした野菜が並べられているのが見えるであろう。この時、あなたの知覚経験が表象しているのは、厳密には何であろうか。色や形や大きさをもったものが知覚経験によって表象されていることについては、誰も疑わない。しかし、「トマト」や「キュウリ」といった野菜の種類が知覚経験のレベルで表象されているか否かについては、哲学者や心理学者の間で意見が分かれる。色や形や大きさや運動などの性質は、「低次性質」と呼ばれる。一方、「トマト」などの自然種や因果性や美的性質などは、「高次性質」と呼ばれる。高次性質は知覚経験によって表象されるのかという問題は、知覚の哲学のホット・トピックの一つである。この問題について、現在私はイリノイ大学シカゴ校のデイヴィッド・ヒルバート教授と共同研究を行っている。具体的には、高次性質の中から因果性に焦点を絞って、「因果性は知覚経験のレベルでは表象されていない」というテーゼを擁護している。知覚経験は継起する二つの出来事間の結合を表象することはできるが、その結合を因果的結合として表象することはない。このような主張を、知覚経験による因果性の表象可能性を擁護するスザンナ・シーゲルの議論の批判的検討などを通じて示すことが、現在の研究内容である。</p>
<p>西村 正秀 Seishu Nishimura</p>	
<p>経済学部 教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <p>●略歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1972 年 京都市生まれ ・1996 年 京都大学 文学部 卒業 ・2004 年 京都大学大学院 文学研究科 博士後期課程 修了 (文学博士) ・2007 年 4 月 滋賀大学 経済学部 准教授 ・2010 年 イリノイ大学シカゴ校 哲学科博士課程 修了 (Ph. D) ・2019 年 06 月 滋賀大学 経済学部 教授 <p>●専門分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認識論 ・心の哲学 ・近世哲学史 <p>業績や所属学会については、 滋賀大学経済学部 HP を参照 されたい。</p>	